

3 (土)

神の息吹がかけられた人間

創世記二章一〜14節

神である主は、土の塵で人を形づくり、その鼻に命の息を吹き込まれた。人はこうして生きる者となった。(7)

最初の人「アダム」の名は「土」という意味です。土の塵で造られた人間の弱さ、脆さを表しています。神はその土の塊にご自分の命の息を吹き入れてくださいました。それによって人は生きる者とされました。ヘブル語では、「息」は「霊」とも訳される言葉です。人は神の霊が吹き入れられた存在であり、ここに人間の尊厳性があります。この神の霊を自らの内に宿して生きることが、人が人として健やかに生きるための秘訣です。救いとは、この神の霊を自らの内に回復することです。主イエスは復活された日の夕方、弟子たちのもとに現れ、「聖霊を受けなさい」(ヨハネ二〇22)と語りつつ、彼らに息を吹きかけられました。それによって死んでいたような弟子たちは命を吹き返しました。この年も、日ごとに新しい神の息吹を受け、神の霊によって生かしていただくではありませんか。